



歴史資料の寄贈を受けました

武雄市の歴史 編さん Vol.5

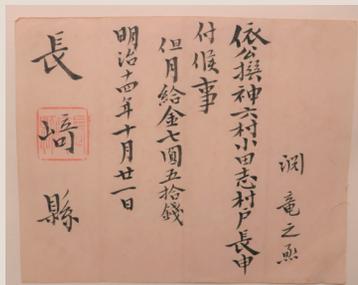
市史編さん

その1 個人所蔵資料 (旧淵家)

淵家資料は、武雄領家臣、淵家に受け継がれた資料です。幕末に活躍した淵 龍之丞（ふちりゅうのじょう）は、戊辰戦争に参加し、明治維新後は現西川登町の神六村・小田志村の戸長などを務めました。昭和40年代に編さんされた「武雄市史」にも掲載されている貴重な資料を、地域の歴史保存に役立ててほしいと、市外在住のご子孫から寄贈を受けました。



▲ 戊辰戦争出発前写真
淵 龍之丞 (1840-1889)



◀ 明治14年神六村・小田志村戸長の任命書

戸長は、明治前期に各地方で戸籍などの行政事務全般を行うために置かれた役。この当時は、長崎県の管轄にあったことがわかります。明治16年(1883年)に現在の佐賀県の県名と県域が定着しました。

その2 戦争の記憶、戦中戦後のくらしに関する資料

令和7年度武雄市図書館・歴史資料館企画展「戦後80年 遠ざかる記憶～未来へのバトン～」には、幅広い世代の多くの方々にご来館、ご観覧いただきました。

市民の方々から寄贈いただいた「防空頭巾」や「千人針」、日の丸の「出征旗」などの戦時資料のほか、戦争を直接体験したの方々によって残された手記や写真等を多数展示しました。戦争に関する公的な文書や記録は、戦後に処分されるなど、その多くが失われてしまっています。戦時中の地域や人々の様子を少しでも身近に感じていただき、戦争の記憶の継承が未来の平和につながるよう、今後も資料を活用していきます。



◀ 資料提供者による企画展

ギャラリートーク
太平洋戦争中、ビルマでの戦闘に従軍した父・井手貞一さんの手記の展示を前に解説を含め、ご自身の体験を語っていただきました。

【山内町出身:井手 勲 (いさむ) さん】



▲ 千人針「祈武運長久」

出征する兵士の無事を祈り、女性が一針ずつ玉留めを縫って贈られた布。兵士は千人針を身につけることで、敵の弾が当たらないといわれました。

市史編さんにご協力ください

ご自宅にある古いアルバム、古い書籍などが、貴重な歴史的資料になる可能性があります。皆さまからの情報提供をお待ちしています。

お問合せ

文化課 市史編さん室 ☎0954-23-9181 E-mail : bunka@city.takeo.lg.jp